

特集 Special

「婚活」のススメ

結婚活動：略して「婚活」という言葉が、最近話題になっています。就職するために就職活動が必要のように、結婚に向けて積極的に活動しなければ結婚できない時代に入ったと、さまざまなメディアで取り上げられています。本来、結婚はプライベートな問題ですが、人口減少が進む庄原市においては、当事者だけでなく地域の将来を左右する大切な問題でもあります。この結婚難の時代をどのように活動し、またどのようなサポートが求められているか、みんなで考えてみましょう。

Chapter 01

なぜ「婚活」が必要なのか

一昔前に比べると周りに独身者が増えてきたと言われています。本当のところはどうなのか。現在の結婚事情を調べてみました。

全国調査から見える姿

近年、生涯未婚率が急上昇しています。生涯未婚率とは、50歳までに一度も結婚をしたことのない人の割合。国立社会保障・人口問題研究所の資料によると、平成17年の生涯未婚率は男性が16.0%、女性が7.3%と過去最高になりました。また、30歳から34歳で男性の未婚率が5割に近づき、女性

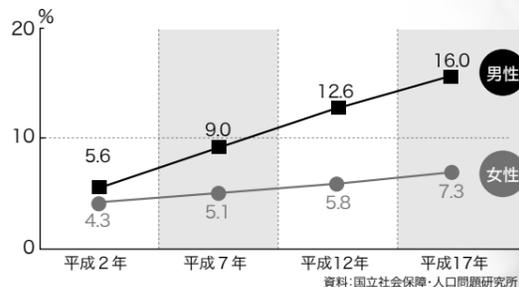
は3割を超えています。

各年代で未婚率が上昇していることから、今後急速に生涯未婚率が増加すると見込まれています。

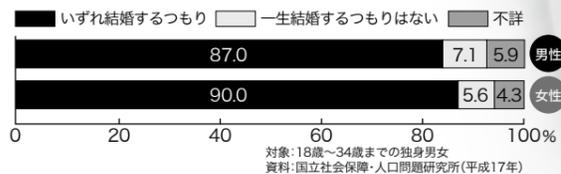
しかし、「結婚したくない」という若者が増えているわけではありません。同じ資料では、18歳から34歳の独身者の約9割が「いずれ結婚したい」と答えています。では、なぜ結婚したいのにしていな

いかか。25歳から34歳までの男女は、その理由のトップに「適当な相手に巡り会わない」を挙げました。これらの調査結果から、多くの専門家は「自然なカタチで良いパートナーに巡り会いたい」と思っている人は取り残される。結婚には、今まで以上に自助努力が必要だ」と指摘しています。

生涯未婚率の推移【50歳 男女】



結婚の意志



写真提供：庄原グランドホテル

庄原市の結婚事情

周りの独身者に話を聞くと「仕事場は同性や既婚者ばかり。仕事帰りや休みの日も独身の異性と知り合う機会がない」「20代の時は合コン(飲み会)の話もあつたけど、30歳を過ぎて周りが結婚してくると、だんだん誘いがなくなってきた」「出会いがあつても、結婚したいと思うような出会いはない」など、独身者の多くが「出会いのチャンスが少ない」と感じているようです。

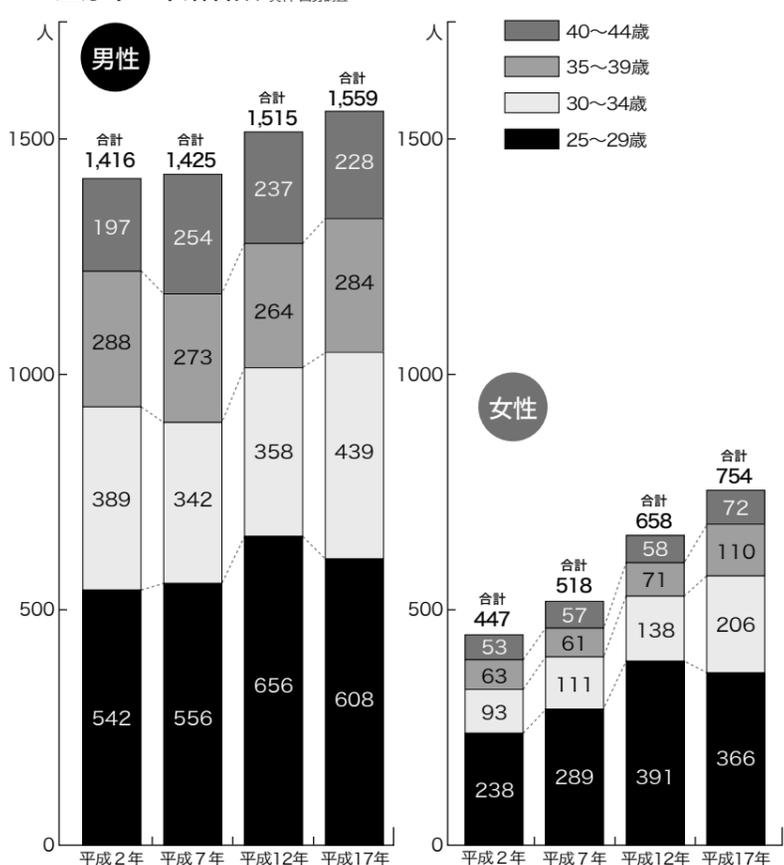
配人は「昔は職場の上司や親戚、近所のおじさんやおばさんがそろそろ結婚したら、いい人を紹介してやろう」と周りが声をかけていた。しかし、最近はお見合い自体が激減し、当ホテルの結婚式で仲人を立てる人は、ほぼゼロと言つてもいい。それだけ男女の出会いをお世話する人が減つたということ。地域の力が落ちてきたことが未婚率の上昇につながっているのでは」と分析しています。

国勢調査結果(庄原市)を見ると、25～44歳の総人口が平成2年から平成17年で3522人減少している反面、25～44歳の未婚者数は450人増加しています。特に男性の未婚者数は、平成17年で女性の約2倍と、男性の結婚を取り巻く状況の厳しさが数字に表れています。また、女性の未婚者数が平成2年の447人から平成17年の754人と急増。各年代の未婚率も上昇しており、男性だけの問題ではなくなつています。

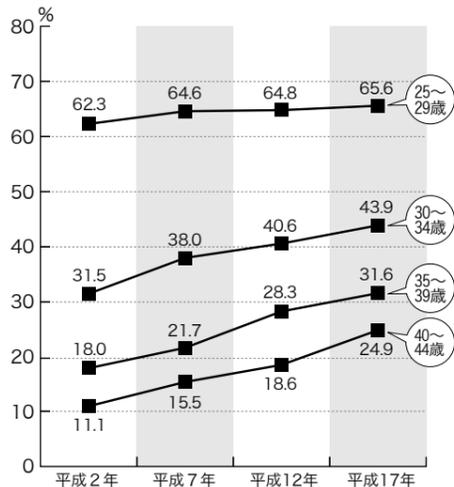
庄原グランドホテルの矢野隆文支

自らを「おせっかいやき」と認める小林富子さん(東城町)は、長年、男女の出会いをサポートしてきた一人。県の生活改良普及員として働いていた小林さんは、仕事で農家を訪ねるたびに結婚相談を持ちかけられ、世話好きな性格から36組のカップルを誕生させました。「お世話をする人が減つてきたのは確か。それに今の若い人は、結婚はしたいけど、良いパートナーがいなければ、無理して結婚しなくてもいいと思つている。昔のようにはいかない」と状況の難しさを指摘します。

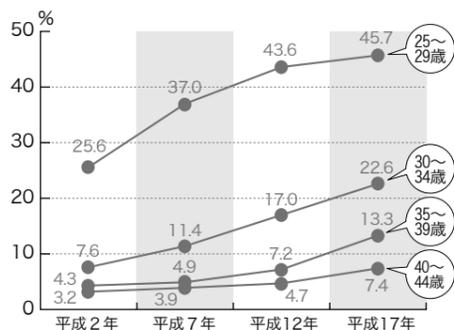
庄原市の未婚者数 資料：国勢調査



庄原市の未婚率(男)



庄原市の未婚率(女)





庄原市ふれあいセンターの2階に開設。

市役所が縁結びを応援

Chapter 02

「婚活」を支援する

定住対策として、男女の出会いをサポートしようと行政などが動き始めました。他の自治体も注目する庄原市の取り組みを紹介します。

合併前、定住対策として旧口和町・旧高野町・旧比和町の3町が合同で行っていた「男女の出会いツアー」を引き継ぐカタチで、平成18年度から庄原市の「男女の出会いサポート事業」がスタートしました。

男女の出会いを作るためには、あらゆるネットワークが必要だと、市内の各種団体や一般市民にも参加を呼びかけ、「庄原市男女の出会いサポート実行委員会」を設立し、実行委員会形式で取り組んでいます。

この事業の柱は「自然遊び体験ツアー」。市内の男性と市内外の女性が、ピザ作りやそば打ち体験、イルミネーションなどを楽しみながら、お互いに理解を深めていくイベントです。平成18〜20年度で36組のカップルが誕生し、うち5組が結婚、1組が婚約中です。その他、広島市民球場で野球観戦をしながら交流を深める「カープ応援ツアー」、出会いの少ない息子や娘に代

わって、親同士が良縁を探すイベント「独身者を持つ親同士の情報交換会」、コミュニケーション能力を高める「男性向けセミナー」などを実施してきました。

「都市部と違って庄原市には、男女の出会いイベントを開催する民間企業がないので助かる」「市役所が関わるイベントなので、女性も安心して参加できる」など、好評を得ています。



イベントを企画する実行委員

県内初！社協が結婚支援

「夫婦は『お互いさま』と助け合う地域福祉の一番基礎となる単位。結婚がなければ、いつか家族は途絶え、地域に暮らす人も減ってくる。このままだと、地域の中で支え合いがなくなり、ますます住みにくい社会になる。地域福祉の向上を進める社会福祉協議会としても、今の未婚率の上昇は見逃ごせない」。庄原市社会福祉協議会は昨年10月、庄原市ふれあいセンター2階に「ブライダルサポートセンター」（結婚相談所）を開設しました。

社会福祉協議会が自ら結婚支援事業に取り組むのは、県内でも初めてで、全国的にも珍しいケースです。庄原市社会福祉協議会の上田正之センター長は「昔のように地域に未婚の男女がたくさんいて、出会いのチャンスがいっぱいあった時代ではなくなりました。市役所と連携し、安心して相談・登録できる場を提供したかった」と話してい

ます。

ブライダルサポートセンターでは、男女の登録会員を募集し、専属の相談員が希望を聞きながら出会いの場を設定します。また、定例相談日を設け、登録や出会いのお手伝い、独身者やその家族からの相談に応じています。

6月15日現在の登録者は、男性が24人、女性7人。年齢層は男性が28〜55歳、女性が25歳〜38歳で、30代を中心に登録者が増えています。双方の合意があつて初めて出会いの場を設定されますが、これまで3件の出会いを設定しています。

松島均相談員は「まだまだPR不足もあり、ブライダルサポートセンターが若い人に認知されていない。今後は女性が多く出入りする美容院など地域に向いて、女性会員を増やしていきたい。そして、第1号のカップルを早く誕生させたい」と意欲を燃やしています。



会員の情報をパソコンに入力する松島相談員



男性向けセミナー

自然遊び体験ツアー

ツアー事例 そばって・ピザって・里山の秋ツアー

平成20年11月1日実施 男女各20人参加

- 9:00 広島駅 女性参加者集合
- 10:45 男性参加者合流
- 11:15 鮎の里(口和町)へ到着 自己紹介
- 12:00 食 事
- 13:00 そば体験、ピザ体験
- 16:00 そば&ピザ会食 フリータイム
- 18:00 告白セレモニー



男女でそば粉をこねる

ブライダルサポートセンター
0824-72-7120

まつしま 松島 均 相談員
昭和23年口和町生まれ。元庄原市職員。



お気軽にご相談を

登録会員の皆さんは真面目な方が多く、なぜ結婚されていないの？と思う人もたくさんいます。皆さんの話を聞いてみると、ほとんどの方が「これまでの人生の中で結婚するチャンスはあった」と言います。その時たまたま決断できなかった、タイミングを逃した方も多く、そういう方や結婚経験のある独身者に、もう一度チャンスを提供したいと思います。

個人情報取り扱いには十分に気をつけています。ブライダルサポートセンターに対する不安や質問、悩みなど何でも結構です。まずはお気軽にお問い合わせください。

- 登録・相談は無料
- ①会員登録
 - 会員登録申請書とプロフィールカードを社会福祉協議会へ提出してください。申請書などはお近くの社会福祉協議会または商工観光課にあります。郵便での取り寄せもできます。登録後は、プロフィールカードの閲覧を通じて、出会いの場を設定することになります。
 - ②定例相談日
 - 毎週月曜日と第2・第4の日曜日13時30分〜16時30分。
 - 電話または来訪してください。専属の相談員が対応します。
 - ※定例相談日に行かれない場合も、事前に連絡をいただければ相談に応じることができます。

「婚活」成功のポイント

結婚難の時代をどのような心構えで婚活にのぞみ、どのように活動していけばよいのでしょうか。男女の出会いをサポートしてきた2人に伺いました。



庄原市社会福祉協議会
総合センター長

うえ だ まさ ゆき
上田 正之さん

昭和29年口和町生まれ。
11年間民間会社で勤務後、平成元年に口和町社会福祉協議会に入職。平成17年4月から現職。

「コミュニケーション能力を高めよう

自己アピール力を磨こう

男女の出会いイベントでカップルになれる人は、自分のセールスポイントをきちんと見つけ、それをアピールできる人です。

特に男性に見られるのですが、イベ

ントに参加しても男性ばかりでかたまたたり、女性と2人で話す機会を設けてもらう機会がなかったり…。そういう人の多くが、真面目でいい人。本当はいい男性なんだけど、もったいないと感じることがあります。「真面目でいい人」という強い武器を持つて



元結婚紹介所アドバイザー

てら うち てつ こ
寺内 哲子さん

昭和28年口和町生まれ。
広島市内の結婚紹介所でアドバイザーとして勤務。
現在は口和町で民宿を経営。

果敢に挑戦しチャンスを広げよう

気軽に婚活を始めては

結婚紹介所へ登録に来られる方は、皆さん勇気を振り絞って一大決心で来られます。「出会いがない」という人や、「将来的な不安から結婚を考えた」という人、「なんでわたしがこんな所へ来ないといけないの？」と仕方なく親に連れられて来る人など、さまざまです。

男女共に変なプライドは捨てて、もっと気軽に婚活を楽しんでほしいと思います。婚活は出会いのチャンスを広げるもの。「楽しいお付き合いができれば」と気軽なお見合い感覚で始めてください。

女性も積極的に声をかけて

人生を良きパートナーと歩むというのは素敵なことです。年齢が高い方も結婚経験のある方も、あきらめずに、いい出会いを探してほしいと思います。

今は女性も積極的に動く時代。男性から声をかけてもらうのを待っているだけでは、いつまでもたつてもいい男性をつかまされません。最近では、男性も受け身。ある程度、自分からリードするくらいでいいと思います。結婚したら女性が家庭を仕切る場合も多く、結婚前の一定期間だけ男性にリードを期

価値観をプラス志向に

独身者と話をしていると、自分の置かれた環境を嘆く人がいます。極端なことを言えば、雪が多い、夜は真つ暗、親と同居しないとイケない、近くにショッピングセンターがない…。そういうことをすぐくマイナスにとらえています。しかし、それを嘆いても仕方ありません。それよりは「雪は多いけど、スキーやスノーボードができる」「満天の星空が楽しめる」「親に子どもをあずけて出かけられる」など、自分の環境をプラスに考えてほしいと思います。

「マイナス志向は異性から「暗い人」と見られます。自分たちが住んでいる地域を好きになり、常にプラス志向の意識を作ることが大切です。」

社協のセミナーで自分磨き

社会福祉協議会では、①ブライダルサポートセンターで出会いのきっかけを作る、②相談員によるフォロー体制を作る、③セミナーで独身者の魅力

待しても無理があります。いい男性だと思ったら、女性から積極的に声をかけていくべきです。

趣味を通じた出会い探し

以前は、高学歴・高収入・高身長を求める女性が多くなりましたが、今の女性は「おもしろい人・楽しい人」を男性に求めています。プロフィールカードに真面目な性格と「行だけ書いてあつても、「おもしろくない人」と女性は興味を示しません。

男性は既婚者を含めて、趣味がない人、休みの日はパチンコという人も多いのですが、もっと遊びが必要だと思えます。最近では、インターネットでも共通の趣味を通じた交流の場が増えており、その中で多くの出会いがあります。また、異性比率の多いサークルに加入するのも有効です。共通の趣味や話題があれば、仲良くなれるチャンスが広がります。

周りはおせっかいをやいて

最近では、ブライバシーの問題に立ち入りたくない、立ち入ってはいけないという雰囲気がありますが、周りの人にはおせっかいをやいてほしいと思います。

これは、何も結婚に限ったことではなく、うれしいことがあれば一緒に喜び、困っていることがあれば一緒に悩むという、いい意味のおせっかいが社会には必要です。

自分たちが紹介した縁で幸せな家庭ができるというのは、自分たちにとっても幸せなこと。市民みんなが縁を手繰り寄せて一組ぐらいいは結婚させようと思えるだけで状況が変わってくるのではないのでしょうか。また、「ブライダルサポートセンターに登録してみたら」「市の出会いイベントに参加してみたら」など、できる範囲でおせっかいをやいてほしいと思います。

一歩踏み出すことが大事

出会いイベントに参加したり、結婚紹介所に登録したり、婚活を始めるという意味で自分の価値を知ることが出来ます。学生時代は異性から求めて、自分は高学歴だと自信をもっている人はショックを受けることもありますが、自分に欠けている部分があり、努力するようになります。例えば、セミナーに行つて会話を勉強してみよう、流行の美容院へ行つてみる、服装を店員にコーディネートしてもらおうなど。結婚紹介所へ登録することで意識が変わり、そこでうまくいかななくても、他でいい出会いに巡り合う人も多くいます。結婚したいと思つても何も行動しないよりは、勇気を持って一歩踏み出すことが大切です。



「婚活」に参加しよう

男女の出会いが少ない庄原市では、市の男女の出会いサポート事業は貴重なチャンスの一つ。本年度の事業について事務局に聞きました。



商工観光課定住推進係
前田 忠範 係長

蓄積してきたノウハウを活かし 出合いをサポート

気軽に参加できるイベントに

世の中「婚活ブーム」と言われていますが、市内での婚活にはまだまだ消極的です。男性も女性も出合いにガツガツするのが「はずかしい」「かつこ悪い」と思つて、出合いイベントを募集しても、声をかけてもらうまで待つているという人がほとんどです。

このような状況を踏まえて本年度

は「新球場へカープの応援に行こう」「自然体験や秋の味覚を楽しもう」と、気軽に参加できるイベントにしたいと思っています。

社協と連携しチャンスを増やす

男女の出合いイベントは、実施した後のフォローが大切です。カップルになれなかった女性から「〇〇さんとゆ

つくり話してみたいのですが、もう一度会えませんか」など、さまざまな相談が市役所へ寄せられます。1件の電話相談に1時間を越えることもよくあり、きめ細かいフォローをしていく体制に課題がありました。また、年に1〜2回のイベントをするだけでは、多くの独身者を支援することはできず、行政だけでなく協力者がほしいと感じていました。ですから社会福祉協議会が「ブライダルサポートセンター」を開設されたことは本当に画期的なこと。イベントの参加者へブライダルサポートセンターを紹介するなど、連携して成果を出したいと思っています。

田舎暮らしに追い風

昔は農村へ嫁ぐこと自体抵抗を感じる方が多くいましたが、最近価値観も多様化し、田舎暮らしへ追い風が吹いていると感じています。

例えば昨年行つた「自然体験ツアー」には、女性定員20人のところ70人を越える問い合わせがあり抽選をするほどでした。また、参加した女性が「農家が希望ですが、農家の方はおられますか?」「結婚したら自分で野菜を作つてみたいのですが畑はありますか?」

【編集者の目】

ほとんどの方が結婚できた時代と結婚難の今とでは時代が大きく異なります。「はよー結婚せえ」と言っている親の世代も、今の時代だったら結婚できていないかもしれせん。この状況をみんなが共有することで、婚活が「はずかしい」とか、「かつこ悪い」という意識が、少しずつ変わっていくように感じました。そして、「ただいま婚活中です。いい人紹介してください」と明るく言える環境をみんなで作っていく必要があると思いました。婚活で一人一人の幸せが増えれば、庄原市の活力にもなります。

平成21年度

男女の出会い サポート事業

参加者募集

カープ応援ツアー

● 庄原市から貸切バスでマツダスタジアムへ行き、カープ観戦を通じて交流します。

とき 9月5日(土)

定員 男女各20人

対象 市内在住の独身者

とき 10月上旬(日帰り)

定員 男女各20人

問い合わせ

商工観光課定住推進係

☎0824-731178

● 自然遊び体験ツアー(予定)
西城町の採れたて新鮮食材を使って、県民の森で調理しながら交流します。

※詳しい内容が決まりしだい、広報紙などでお知らせします。また、商工観光課へ事前にお問い合わせください。個別にチラシなどを送付することもできます。

各団体の婚活を支援

昔は地域の力で、ほとんどの方が結婚していましたが、今はその力がほとんど発揮されていない状況です。もう一度、地域の力を復活させることができれば、もつと結婚しやすい環境が作られると思います。

現在、庄原グランドホテルでは「地域の世話好きの人を集めて独身者の情報交換会をやりたい」と新たな企画を練られています。この企画は、企業や自治振興区に参加を呼びかけても効果的かもしれません。また、商業関係者も「未婚率が高くなると将来的に人口が減り、商品が売れないなど地域経済にも大きな影響を与える。このままではいけない。自分たちでできることをしたい」と、意欲的です。

今後は、このような各地域の団体が行う出合いイベントにも支援をしていきながら、地域全体に婚活支援の輪が広がることを期待したいと思ひます。